

【祝 叙勲】

平成 21 年秋の叙勲 瑞宝双光章受賞の栄に浴して



東海支部 三重県 43 回生 西村広一(43 回生)

平成 21 年秋の叙勲として、はからずも瑞宝双光章の栄に浴しました。

平成 21 年 11 月 9 日国際劇場にて、副大臣より勲章の授与式がおこなわれ、受賞者、配偶者ともにバスで皇居に参内し、豊明殿にて天皇陛下に拝謁を賜りました。いうまでもなく、先輩方、後輩、皆様のおかげであり、感謝しております。

昭和 43 年レントゲン技術専修学校(現、京都医療科学大学)を卒業して 40 年間、三重大学医学部附属病院に在職させていただきました。当時は現在ほど診療放射線技師(レントゲン技

師)という職種は世間では認知されていないように思いました。思い起こせば、2 年生の 2 学期の 12 月 23 日、未だに就職先も決めずに、大学の専攻科に行くかどうか、決め兼ねていた時、故滝内校長から、「三重大学病院に面接だけでも良いから受けてみて下さい」と説得され、翌日 24 日に三重県の地を踏みました。三重県は、伊勢神宮に修学旅行に行っただけで、交通手段も判らず、時刻表を頼りに今の JR で三重県の津に着きました。到着してみると県庁所在地の駅とは思えない質素な駅でした。病院も大変老朽化が進んでいました。面接といえないような状況で技師の方々に紹介をしていただき、1 年先輩の奥村氏に駅まで送っていただく途中で居酒屋に立ち寄り、列車の出発時間を気にしながら酒をのみ、かなり酩酊をして帰宅したことが鮮明に思い出されます。年が明けて登校しますと採用通知がきており、またもや校長に 3 年たったら京都に呼び戻すから三重県に行くように説得されました。小生は 3 年で京都に戻れると思っていましたが、住めば都と言われるように、気候は温暖であり、人は穏やかな方が多く、諸先輩方に恵まれ 40 年の長きにわたり在職させていただきました。その間、昭和 48 年病院の移築に伴い県立から国立へ移管し、平成 16 年に法人化されました。現在、病院の再開発が 3 期に分けて行われ、第 1 期が平成 23 年度に完成、第 3 期完成まで 10 年に及ぶ病院の再開発が行われています。

この間、放射線技師を取り巻く状況も大きく変貌してきました。昭和 49～50 年頃、当時の教授から、水の中に頭を入れて撮影する装置があると教えて頂きました。当時は理解できずにいましたが、それが現在の CT の始まりでした。それ以後、画像のデジタル化が進んで来たように思います。

この 40 年間、診療放射線技師であったことは小生にとって幸せだと思います。これも、先輩、後輩その他の関係者のおかげだと感謝いたします。末筆になりましたが、これからも京都医療科学大学学友会が発展することを祈念します。

以上